

ば、残り給ふ御名はおなじ事なるべし、

〔帝王編年記二十四〕仁治三年三月十八日、天皇即位于太政官廳、御歳二十三、中七月十一日、今上

御母儀子通被贈皇太后宮御外祖父宗源通被贈左大臣正一位、

〔三水記〕永正元年七月十九日丁未、今日今上柏原御母子朝准三宮今度皇太后宮御十三回、就之於城内

般舟三昧院、有御經供養、導師定法寺大僧正公助

〔皇胤紹運錄〕正親町院 母吉徳門院、贈皇太后榮子、三木藤賢房女、

〔近代後宮小傳〕新中和門院藤原近衛前相國家熙公姫君、正徳二年三月七日御入内、享保五年正月

廿日准三宮宣下、同日門院號宣下、同日薨、同月葬、同十三年六月廿六日贈皇太后宮、

〔先代舊事本紀七〕元年二月、尊皇后曰皇太后、皇太后媛追贈皇太后、

〔先代舊事本紀七〕元年正月甲午、皇太子尊即天皇位、尊皇后曰皇太后、尊皇太后色追贈太皇

太后、

○此他同書ニ、景行天皇元年、皇太后御間城入姫ニ、太皇太后ヲ追贈シ、成務天皇元年、皇太后日

葉洲媛命ニ、太皇太后ヲ追贈シ、仲哀天皇元年、皇太后八坂入姫命ニ、太皇太后ヲ追贈シ、履中天

皇元年、皇太后仲媛命ニ、太皇太后ヲ追贈シ、安康天皇即位、皇太后磐之姫命ニ、太皇太后ヲ追贈

セラレシ事見エタレドモ、煩シケレバ、此ニ掲ゲズ、

〔日本後紀十四〕大同元年五月辛巳、即位於大極殿、中壬午、追尊皇太后、光仁爲太皇太后、

〔日本紀略六〕安和二年八月廿五日庚子、太上天皇泉尊號詔、内大記伊輔作之、又贈妣贈皇太后

藤原安子上村太皇太后、

○按ズルニ、光仁后高野新笠ハ、皇太夫人ニテ薨ジ、後ニ皇太后又太皇太后ヲ贈ラレ、村上后藤

原安子ハ、皇后ニテ崩ジ、後ニ皇太后又太皇太后ヲ贈ラレタリ、俱ニ異例ト云フベシ、

贈太皇太后